



創業の精神

熱と誠

1912年、畠山一清は「あのかち式渦巻きポンプ」を世に広めるため、荏原製作所を創業。東京大学 井口在屋教授とともに、大学発のベンチャー企業として、水道用ポンプの国産化、災害に備えた水インフラの整備、水道の浄水装置の国産化などに取り組みました。

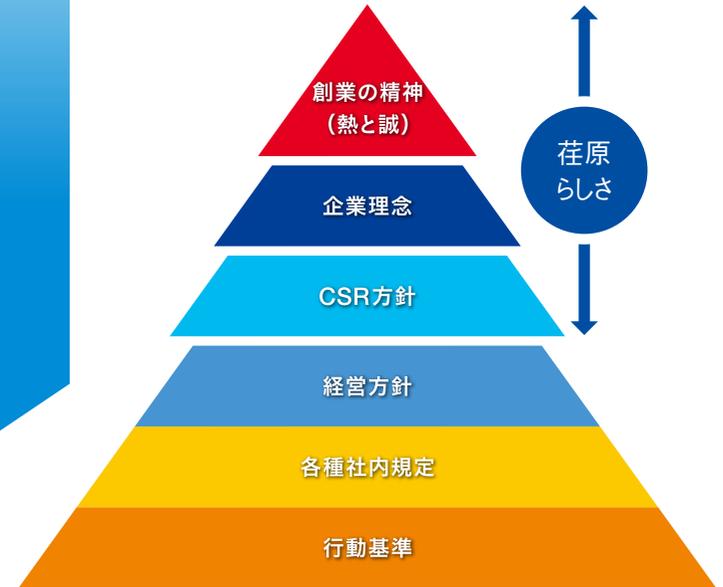
「日本の近代化に貢献したい」「社会の課題を解決したい」という熱意と誠意、「熱と誠」を原動力に、荏原製作所は社会・産業・暮らしを支えていく製品・サービスを提供し、社会に貢献していくことを使命としてきました。

「熱と誠」の精神と、製品・サービスの提供を通じて社会に貢献していくという使命は、現在も従業員に受け継がれています。

私たちの使命は
社会・産業・暮らしを支えていく
製品・サービスを提供し、
社会に貢献していくこと

その原点は「熱と誠」

荏原グループの企業倫理の枠組み



創業の精神 熱と誠

与えられた仕事をただこなすのではなく、自ら創意工夫する熱意で取り組み、誠心誠意これをやり遂げる心をもって仕事をする。

企業理念

水と空気と環境の分野で、優れた技術と最良のサービスを提供することにより、広く社会に貢献する。

CSR方針

全ての業務を高い倫理観に基づいて実行し、全てのステークホルダーと良好な信頼関係を築き上げる。

広がる事業領域

荏原グループは、「あのくち式渦巻きポンプ」を原点とするコア技術を応用し、組み合わせ、製品群を進化させてきました。国内はもとより世界の社会インフラを支え、安全・安心で豊かな生活を実現しています。

流体解析・制御

液体や空気の流れを解析し、最適な状態へ制御する技術



荏原の コア技術

腐食・構造強度

金属の腐食メカニズムや製品に加わる応力を解析し、材料の組成や構造を最適化することで耐食性と強度を高める技術

振動・騒音制御

機械が動く際に発生する振動や騒音を解析し、低減させる技術

エンジニアリング

ごみ処理施設や水処理施設、インフラ系プラントなど、大規模なプロジェクトや複雑なシステムを顧客のニーズに合わせて設計・管理する技術

システム制御

機器や設備施設が正しく動作するよう自動的に制御する技術

界面制御

界面で起こる現象を解析し、最適な状態へ制御する技術

建築・産業 カンパニー



エネルギー カンパニー



インフラ カンパニー



環境 カンパニー



精密・電子 カンパニー



新規事業

給水ユニット



ビルやマンションなどの建築設備や工場設備などにおいて、安定した水供給を担う重要な機器です。

ボイラ給水ポンプ



火力発電は高圧蒸気でタービンに動力を与え、タービンと直結した発電機を回転させることで発電しています。ボイラ給水ポンプは、ボイラへ高温の水を送り込むことで、この高圧蒸気をつくり出しています。

農業用ポンプ



農業灌漑施設で送水を担う重要な設備であり、農業用水を安定的に供給しています。

廃棄物処理施設



廃棄物処理施設の設計、建設から運転管理、メンテナンスまで一貫して手掛け、安全・安心な施設の提供と安定した稼働により、衛生的な暮らしを支えています。

ドライ真空ポンプ



半導体製造工程などで真空をつくり出すために使われています。

排ガス処理装置



半導体製造工程などで使用される有害ガスを、工場の外に排気する前に無害化します。

ファン



気体を送るための機器です。ビルやマンションなどの室内に新鮮な空気を送ったり、汚れた空気を外に出す「換気」に使用されています。

コンプレッサ・蒸気タービン



石油精製プラントや石油化学プラントなどの心臓部にあり、原油、天然ガスなどから発生するガスを圧縮しています。

排水ポンプ



大雨の際、住宅地や農地などへの水害を防ぐため、雨水を川や海に強制的に排水します。

冷凍機



大型商業施設や工場に空調用の冷水を供給し、建物全体を冷やしたり暖めたりします。冷熱環境の最適化によるコスト削減や、省エネルギー・CO₂削減に貢献しています。

クライオジェニック製品



マイナス162℃という極低温の液化天然ガス(LNG)の輸送・保管に使われるポンプ、液化工程で使われるエキスパンダで高い技術と安全性が求められます。

送風機



トンネル内の空気環境の維持及びトンネル火災時の避難環境確保などのため、トンネル換気設備を納入し、精度の高い換気制御を行っています。

バイオマス発電施設



多種多様な燃料を安定燃焼できる内部循環流動床ボイラの特長を生かした木質バイオマス発電施設の建設、運転管理を通じて、再生可能エネルギーの普及と気候変動対策に貢献しています。

CMP装置



半導体ウェーハの表面を砥液で研磨し、ナノメートルレベルの平坦化を可能にします。

めっき装置



ウェーハの上の微細なパターンに沿って、金属膜を均一にめっきします。

水素・航空宇宙

マリン

バイオ

GX

ライフ

荏原の強みと信頼のあゆみ

顧客のニーズに応え、社会課題を解決する製品とサービス&サポートの提供を通じて、世界の国々の発展と安全で豊かな社会の実現を支えることが、荏原グループの使命です。「熱と誠」をもって、あらゆるステークホルダーと誠実に対話を重ね、企業価値の向上に挑戦し続けます。

荏原の強み

技術力

先進性と高い信頼性

社会課題
解決力

持続可能な
社会への貢献

熱と誠

荏原らしい人材と組織

対話

社会との価値協創

収益性
効率性

健全かつ高水準の
成長実現

透明性

ステークホルダー起点の誠実な経営

荏原グループの基礎づくり

創業以来、水道用ポンプの国産化、災害に備えた水インフラの整備、水道の浄水装置の国産化などにいち早く取り組み、日本の近代化に貢献しました。

社会が求めた荏原の技術

食糧増産用のポンプや農地造成用ポンプを大量に生産し、戦後の国民生活の安定に貢献しました。また、電力不足を解消するため、超臨界圧の発電所に国産第1号機となるボイラ給水ポンプを納入しました。一方で、プラント用機器の輸出や海外拠点づくりを進め、海外進出への体制整備を図りました。

社会に広がる荏原の技術

ダイオキシンを完全分解すると同時に残渣をリサイクルする次世代型ごみ処理装置としてガス化熔融炉を開発・実用化することに成功しました。また、今まで培ってきた技術を応用したドライ真空ポンプを開発し、精密・電子事業（現、精密・電子カンパニー）がスタートしました。

ガバナンス重視の新たな体制構築

順調に事業拡大を進め、グローバル展開を図ったものの、海外事業の撤退やコンプライアンス関係の不祥事が発生し経営の危機に。経営を立て直すため、2002年より次々とガバナンス改革を実行し、現在に至る強固なガバナンス体制の礎を築きました。▶P102 ガバナンス改革10年の変遷

創業100年を迎え、次の成長へ

事業の選択と集中により、財務基盤の改善と筋肉質な事業構造の確立を図りました。サービス&サポートの強化と海外拠点の拡大、IoT・AIを活用した自動組み立てラインの導入を進め、グローバル市場における競争力を高めています。また、コーポレート・ガバナンスの強化や人事制度改革を行い、ESG経営を進化させました。

社会に貢献し続け、グローバル・エクセレント・カンパニーへ

「技術で、熱く、世界を支える」をスローガンとし、社会・環境価値を同時に向上させていくことで企業価値を高めます。2023年に製品別組織から対面市場別組織へと移行し、長期ビジョン達成に向けて邁進しています。

1912年~

1945年~

1980年~

2000年~

2010年~

2020年~

荏原のプレゼンス

荏原グループは、社会のニーズに応え続けて成長を遂げ、グローバルな地位を確立しています。

世界トップシェア

クライオジェニック製品

主にLNG液化プラントで極低温の液化天然ガスを移送する役割を担っています。高い技術力が求められるクライオジェニック製品分野において数多くの納入実績があり、世界的リーダーとして認められています。



国内工場の標準ポンプ累計生産台数は1,900万台以上。生活を支える水の給排水など多様なニーズに応えるポンプで、快適な住環境づくりと

産業の発展を支えています。また、ビルや公共施設の空調向けに熱源機器を提供し、製造からメンテナンスまでの一貫体制で最適なソリューションを提案しています。

国内シェア

No.1

標準ポンプ、冷却塔

世界トップシェア

石油・ガスプラント(ダウンストリーム)向けコンプレッサ

石油精製・石油化学プラントの心臓部として、原油、天然ガスから発生するガスの圧縮工程に使用されます。お客様のニーズや各プロセスに対応する幅広いラインナップを用意しています。



廃棄物処理施設での
運転管理受託数

80

施設以上

廃棄物処理施設での運転管理受託数は80施設を超え、日々運転管理ノウハウを蓄積しています。このノウハウを活かし、遠隔サポートセンターでは廃棄物処理施設の運転状態をリアルタイムでチェックし、運転の技術支援や最適化支援を行っています。

CMP装置、ドライ真空ポンプ

世界シェア2位

半導体の微細化・積層化に欠かせないCMP装置や半導体製造工程でクリーンな真空を生み出すドライ真空ポンプを製造しています。高い要求水準に応えつつ、日進月歩の技術革新に対応し、半導体の進化を支えています。



廃棄物処理施設納入実績 国内外

500

施設以上

廃棄物処理施設の設計、建設から維持管理、運営までを一貫して行い、500を超える施設を納入。更に、ごみ焼却により発電した電力を周辺の公共施設等に還元する、電力の地産地消を行っています。



排水ポンプが活躍する
国内排水機場等

1,000

か所以上

ゲリラ豪雨や台風が起きた際に雨水を河川や海に放流し、街を浸水被害から守る大型の排水ポンプを全国の排水機場等に納入しています。近年、異常気象の影響で排水機場等の重要性が高まっている中、排水ポンプは皆様の安全・安心な暮らしを守っています。

統合報告書2025のポイント

1

取締役 代表執行役社長 CEO兼COOに細田修吾が就任

2025年3月に取締役 代表執行役社長CEO兼COOに就任した細田が、荏原グループの目指す姿や注力領域における取組み、企業価値向上に向けた想いをお伝えします。

▶ P11 社長メッセージ

2

4期連続で 過去最高業績を更新

荏原グループの2024年12月期業績は、4期連続で過去最高を更新しました。E-Plan2025の進捗や、更なる事業成長と資本効率の改善に向けた取組みを紹介します。

▶ P32 CFOメッセージ ▶ P24 E-Plan2025 5つの重点領域と進捗

3

コア技術の進化と 事業間シナジーを紹介

コア技術を起点に、顧客とともに新たな製品・サービスや事業間シナジーを創出し、コア技術を更に進化させる好循環の仕組みと具体的なシナジー事例を紹介します。

▶ P16 コア技術の進化と事業シナジーの好循環

4

カーボンニュートラルの実現に向けた 目標をアップデート

2050年カーボンニュートラルの実現に向けたロードマップの見直しを行い、Scope3の削減量などの新たな目標を策定しました。

▶ P58 2050年カーボンニュートラルの実現に向けたロードマップ

5

ガバナンス改革から10年、 更なる進化を目指す取締役会

当社は2015年より「監督と執行の明確な分離」という方針のもとガバナンス改革を推進し、大きな進歩を遂げました。その取組みと成果を紹介します。

▶ P102 ガバナンス改革10年の変遷 ▶ P104 実効性評価を起点とした取締役会の10年の改革

荏原グループ 統合報告書2025の 発行にあたって



統合報告書発行責任者 執行役 CFO 湊田 徹也

当社の持続的な企業価値向上に向けた取組みについて、投資家をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様へ、より一層ご理解を深めていただけるよう、当社は2015年より統合報告書を発行しています。

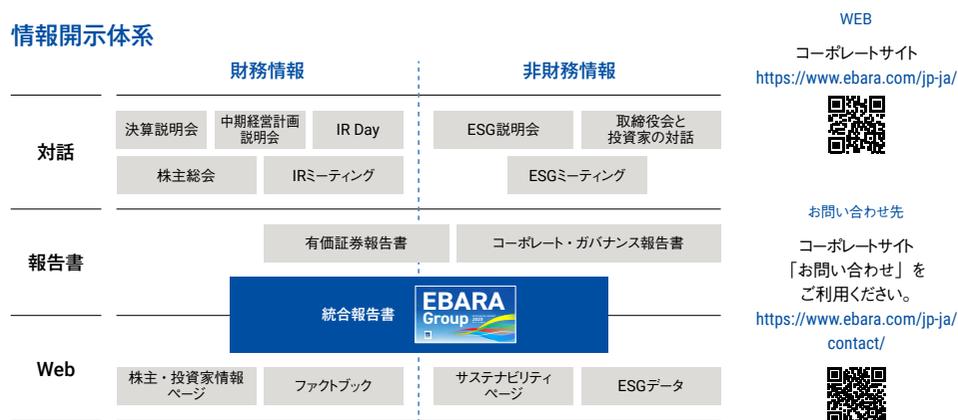
「荏原グループ 統合報告書2025」は、当社が「荏原らしさ」を根幹に各経営資本を活用し掛け合わせることで、どのように社会・環境価値と経済価値を生み出していくのかを、読者の皆様にご理解いただくことを目指しています。

私は、本報告書の発行責任を担う執行役として、その作成プロセスが正当であり、かつ記載内容が正確であることを、ここに表明いたします。ステークホルダーの皆様との対話やご意見を経営に反映し、企業価値の持続的向上に向けて取り組んでいきます。

編集方針

荏原グループの中長期的な価値創造について、財務・非財務の両面からお伝えすることを目的として発行しています。編集にあたっては、IFRS財団（The IFRS Foundation）による「国際統合報告フレームワーク」と、経済産業省による「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス2.0」、GRIスタンダードを参考にしました。GRI対照表はコーポレートサイトに掲載しています。

情報開示体系



社名表記	「荏原」「当社」は、株式会社荏原製作所単体を示します。また、「荏原グループ」「当社グループ」は、荏原と国内外の連結子会社及び関連会社を示します。
対象読者	荏原グループに関わるすべてのステークホルダーの皆様
報告対象期間	2024年12月期（2024年1月～12月）を主たる報告対象期間としています（対象期間と異なる場合は注釈などを入れています）。
報告範囲	株式会社荏原製作所、連結子会社107社、関連会社3社及び共同支配企業1社（2024年12月31日現在）より構成される荏原グループを対象としています。掲載するデータについて集計範囲が異なる場合、都度明示しています。
発行日	2025年6月30日

将来情報に関する留意事項

本報告書で開示されているデータや将来予測は、本報告書の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本報告書記載の情報及び資料のご利用は他の方法により入手された情報とも照合し、利用者の判断によって行っていただきますようお願いいたします。本報告書を利用した結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

ステークホルダーエンゲージメント

企業経営において、顧客、株主・投資家、取引先、地域社会、従業員などの多様なステークホルダーとの価値協創が重要です。皆様との強固なパートナーシップは、荏原グループの持続可能な成長に不可欠であると考えています。今後も、マルチステークホルダーの皆様と協働し、対話を行いながら、新たな価値創出に取り組んでいきます。

ステークホルダー	エンゲージメント例	アウトカム
顧客	<ul style="list-style-type: none"> ● 営業部門を通じた日常的なコミュニケーション ● カタログ、Webサイトなどによる情報提供 ● コールセンターによる、ご意見・ご質問の受付と対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域部制導入（建築・産業）や、機能別、地域別組織体制の推進（エネルギー） ● アカウント制導入やグローバル最適視点での開発体制の構築（精密・電子）
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> ● 株主総会、決算説明会を通じた情報開示、コミュニケーション ● 統合報告書、決算説明会、Webサイトなどを通じた情報の適時開示 ● 株主・投資家を対象とした工場見学、IR Day、ESG説明会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営に対する信頼性の向上 ● 事業活動の改善に向けた経営への誠実なフィードバック <p>P120 IRコミュニケーション</p>
取引先	<ul style="list-style-type: none"> ● 製品材料、資材、役務の調達先との調達部門を通じた日常的なコミュニケーション、荏原CSR調達ガイドラインへのご協力をお願い ● 協力会社からのご意見・ご質問の受付と回答 ● 協力会社などの研修会に対する支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● 優れた品質と安全性 ● 市場競争力のある価格 ● 確実な納期の確保による安定的な製品・サービスの提供 ● 価値協創のパートナーシップ向上
地域・社会	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会・企業との連携活動 ● 大学との共同研究 ● EBARA Open Laboratory (EOL) の市民団体とのオープンイノベーション活動 	<ul style="list-style-type: none"> ● 近隣の住民との良好な関係構築 ● 技術開発、より良い製品・サービスの開発 ● 人材獲得候補の拡大 ● 価値協創のパートナーシップ向上
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ● 社長懇談会・白熱的教室など経営層との対話機会 ● 労働組合との定期的なコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保有技術・コアコンピタンスと技術・技能人材の見える化（技術元素表）によるグローバル全体視点での技術と人材の有効活用

Contents

イントロダクション

創業の精神「熱と誠」	1
広がる事業領域	2
荏原の強みと信頼のあゆみ	3
荏原のプレゼンス	4
統合報告書2025のポイント	5
編集方針・ステークホルダーエンゲージメント	6
目次	7

Section 1

Essential EBARA. Everywhere.

— 荏原の“ありたい姿” —

長期ビジョン E-Vision2030	9
荏原の価値創造ストーリー	10
社長メッセージ	11
コア技術の進化と事業シナジーの好循環	16
E-Vision2030 Milestones	20
中期経営計画 E-Plan2025	21
E-Plan2025 財務目標	22
E-Plan2025 非財務目標	23
E-Plan2025 5つの重点領域と進捗	24
E-Vision2030とE-Plan2025における非財務目標とKPI	27

Section 2

企業価値を向上させる

— 荏原の資本 —

2030年にありたい姿と経営資本の関係	30
CFOメッセージ	32
特集 荏原グループ技術元素表	37
人材戦略	39
研究開発・知的財産戦略	45
DX戦略	49
リスクマネジメント	53
コンプライアンス	55
サステナブルな水・空気・環境へ	56
グローバルで責任を果たす	63
人権の尊重	63
サプライチェーンマネジメント	64
公正取引委員会からの勧告に対する取り組み	65
生産マネジメント	66
品質マネジメント	67

Section 3

顧客起点で価値を創造する

— 荏原の事業 —

建築・産業カンパニー	69
エネルギーカンパニー	72
インフラカンパニー	75
環境カンパニー	78
精密・電子カンパニー	81
新規事業 水素関連事業	84
新規事業 マリン・バイオ・GX・ライフ	88

Section 4

Governance to Value

— 荏原のガバナンス —

取締役会議長・指名委員会委員長によるステークホルダーとの対話	91
取締役	95
取締役会の役割と構成	97
コーポレート・ガバナンス	99
執行役	112

Data

財務 10か年データ	113
セグメント別 財務 10か年データ	115
ESG 7か年データ	117
外部評価	119
IRコミュニケーション	120
企業情報／株式情報	121